◇当会の嬉しい足跡

会長　谷口恭子

本年も皆様のご支援、ご協力のお陰で無事乗り切れた事を本当に有り難く、厚く厚く御礼申し上げます。

○栃木支部が誕生し、支部長は山崎裕司様です。最初の仕事として、タイコンテスト研修生(谷口農場が法人化した記念として、タイの優秀な人を選び日本で研修させる)第1班7人を栃木で引受けられ、大変有意義な研修をさせて頂きました。(前記)その第2班2名は熊本で受入。この2人は奨学金のお陰で、大学と大学院を卒業し、1人は大学教授になり博士号を日本で取る為その下調査に。1人はその通訳。里親の徳永夫妻は我子以上に2人の世話をして下さいました(後記)。この様に里子達も皆様のお陰で立派な社会人になり始めました。社会人として収入も安定し、後輩の奨学金が出せるようになるまで、日本からの里親支援を頑張ろうではありませんか。

○国際ボランティア貯金は今年は4回目、443万円の配分を頂き、谷口農場の青年教育とエイズの一部を補うことが出来、本当に有難うございました。やっとエイズが確実に減少している資料を入手できました。チェン郡に1つしかないチュン病院の統計で、5年前迄は死亡率上位5の中でエイズが最高でしたが、H11年より毎年半分に減り、現在は最下位になっています。又エイズへの妊婦の感染率もH9年より急に下がり続けています。という事は私達の奨学金やエイズ支援、ミシンプロジェクトの効果が現れ始めた証拠ではないでしょうか。当会はエイズの子供の養育費や患者の生活費、更に栄養補給にも力を入れ、大豆がエイズに有効との事で食べやすいように、もやしや豆乳を製造する機械を購入して大量普及にも努めています。

○果樹の森も8年目。早く植えた所は収穫が始まり、収入になり始めたので、苗代の希望者は毎年増加するがなかなか資金が集まりにくい。20万円以上の方は、出資者が好きな森名をつけ、その名を書いた標識を建てるのです。何かの記念とか、香典返し等でご協力願えませんでしょうか。

○物を大切にする事が地球を護る原点です。身の回りの物を大事に、食べ物は残さない、野菜や花、木を少しでも植え、電気の無駄使いをしない等、1人1人の努力が大きな国際協力となるのです。よろしく。

◇里子タワン君・日本へ

里親　徳永　龍

あれは1994年の正月の事でした。当時の日記を読み返せば、登山、温泉、ボーリング、カラオケ、百人一首と、家族全員でお正月を存分に楽しんだ最後の年だった様な気がします。その正月の熊日の特集号に、谷口夫妻の記事が大きく出ていました。幸せそのものだったような其の時、何故か強烈な衝撃を受けた事を今も忘れられません。すぐさま恭子先生宅に電話し、9日に訪問し昼食をご馳走になり、その年の訪タイの予約をしました。そしてチェンマイのメ・ジョ大学訪問、全学生の集会で歓迎の挨拶をした学生がタワンでした。

其の時は彼がその数年後自分の里子になるとは露知らず・・・。次の年も同じく訪タイ、メ・ジョ大学では小生の野点(のだて)の亭主役で何と茶杓を忘れて、スプーンでの点前・・・。その後あのタワンが小生の里子になりました。3度目の訪タイは1997年、今度は家内も一緒でした。タワンはその時既にメ・ジョ大学を卒業してバンコクのカセサート大学の大学院生。帰途のバンコク空港へ駆けつけてくれ、一緒に撮った写真は、今も我が家の居間に飾ってあります。その後は定期的に成績表と礼状が来るようになり、いつの間にかお互いにEメールの交換をする間柄になりました。

彼はその後めでたくカセサート大学院を卒業、母校メ・ジョ大学の講師として勤務する事になり、里子でなくなりましたが、メールは時々来ていました。そして今年、日本の大学の博士課程に留学して専門の醸造学を更に勉強したいとの報。

直ぐ思いついたのは、かつての恩師が学長をされていた佐賀大学、早速恩師に同行して農学部長訪問、学部長はタイとの関係も深く、協力を取り付けることが出来ました。そして今秋タワンが通訳のサーンと訪日。5年振りの再会でした。彼氏も気が高ぶっていたのか、バンコクのタクシーで財布とパスポートを落とし、見つかるまで空港で徹夜したとか。

翌日佐賀大学で農学部長と面会。当日は学園祭の最中にもかかわらず、日本留学について丁重に説明して頂き、奨学金の取得が必須条件である事が分かりました。何となれば3年間に2本以上の論文を提出して大学連合の審査会をパスする事が卒業の条件とか、アルバイトとの両立など不可能との事でした。タワンは同大学の他、1週間の滞在期間をフルに使って精力的に鹿児島大学、東海大学、工業技術センター等を回りました。

帰国後タワンが巳三郎先生と相談して出した結論は、佐賀大学に留学したいとの事。タイミング良く佐賀大学農学部長が別件で訪タイされて、現地でもコンタクトした事も大学選択の要因になったかも知れません。後は奨学金取得の順位を如何に上げて頂けるか、それ次第で留学時期が決まります。

谷口プロジェクト奨学金里子の星、タワン君の将来に幸有れ。

6．世界規模での視点をもて

福島大学医学部
宮林　香奈子

前略　エイズプロジェクトを見学したり、エイズの患者さんや、その家族の方のお話をお聞きしたり、と北タイのエイズの現状、そして村の暮らしを五感全てを使って感じる事ができた様に思います。人が毎日生きていくとはどんな事だろうと考えました。又先生のレクチャーをお聞きし、世界規模での視点を持つことを知りました。日々の生活においても之から何が起きそうなのか、今何が問題なのかを考えて暮らして行きたいと思っています。また人と人との連ながりの大切さを感じました。谷口先生を中心とした日本人ボランティアや、活動している皆様の連携、結束を見ることが出来、温かい皆さんと出会えた事に大変感謝しています。またタイへ、21世紀谷口農場へ伺いたいです。その際はよろしく「後